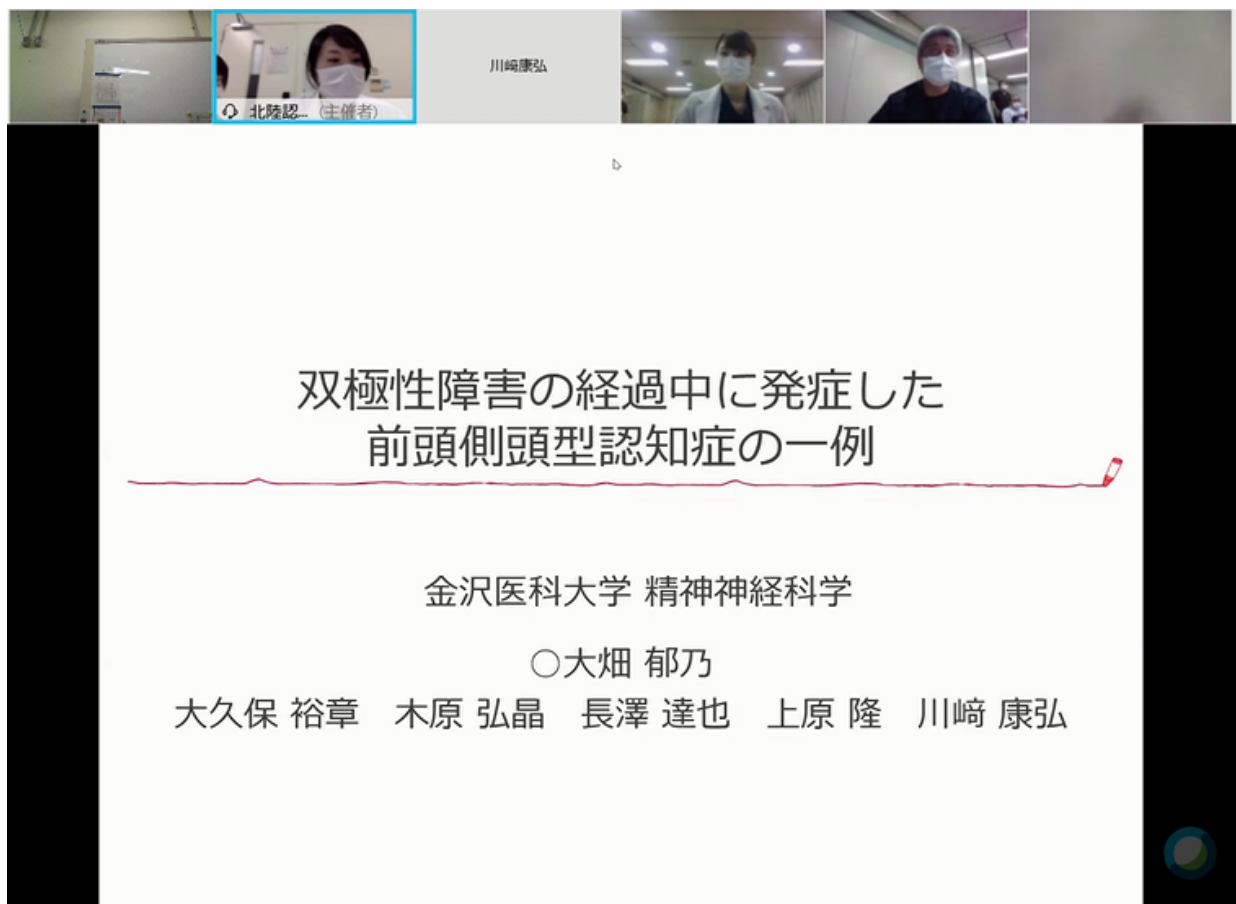


第71回デメンシアカンファレンスを開催

2021年4月27日

4月27日（火）に金沢医科大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ） 「第71回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「双極性障害の経過中に発症した前頭側頭型認知症の一例」のタイトルで、金沢医科大学からの症例報告が進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。



北陸認... (主催者)

川崎康弘

双極性障害の経過中に発症した 前頭側頭型認知症の一例

金沢医科大学 精神神経科学

○大畑 郁乃

大久保 裕章 木原 弘晶 長澤 達也 上原 隆 川崎 康弘

症例発表の様子とスライド

第 71 回 デメンシアカンファレンス 報告要旨

『双極性障害の経過中に発症した前頭側頭型認知症の一例』

発表者：大畑 郁乃(金沢医科大学精神神経科学)

司会：上原 隆(金沢医科大学精神神経科学)

【要旨】

症例は 75 歳女性。X-14 年より双極性障害と診断され、薬物治療を受けていた。X-1 年 1 月より不眠や多弁、落ち着きのなさに加え、認知機能の低下(MMSE20 点)を認めるようになった。その後、夫を追いかけてついて回ようになり、リスペリドンが追加されたが、構音障害や振戦が生じ、身の回りのこともままならなくなり、X 年 6 月より精神科病院に入院となった。入院中に向精神薬の調整が行なわれるが、不全型悪性症候群、セロトニン症候群、パーキンソン症状、嚥下障害といった種々の副作用が出現し、精査加療目的で X 年 10 月に当科に転院となった。当科転院時、バルプロ酸、プロモクリプチン、睡眠薬などを内服していた。

当科入院時は脱抑制行動や常同行動を認め、会話はオウム返しが多くみられた。クエチアピン 50 mgを開始し、100 mgまで増量したところ、脱抑制行動は改善し、夜間もまとまった睡眠がとれるようになった。画像所見として、X-2 年から経時的に進行する前頭葉の萎縮と SPECT(ECD)で両側前頭葉の血流低下を認め、DAT スキャンでは両側線条体集積は保たれていた。

X-2 年から前頭葉の萎縮が進行し、それに伴い脱抑制や常同行動といった行動障害を認めたことから、双極性障害の経過中に前頭側頭型認知症を発症したと考えられた。Rascovsky らの bvFTD 診断基準では Probable bvFTD の診断基準を満たしていた。

しかし、双極性障害と bvFTD において無関心や脱抑制傾向、自己の行動の統制障害等の症状や、前頭葉の萎縮は共通してみられ、両者を鑑別することは困難であり、適切な診断・治療を行なうために、この領域の研究の発展が望まれる。

【質問・意見】

質問：睡眠薬はどのように中止したのか。

回答：当科入院初日にゾルピデム、プロチゾラムの 2 剤とも中止し、クエチアピン 50mg を開始した。

質問：「数多くの種類の薬剤が使われた」とあるが、双極性障害に対しての薬物治療はどうだったのか。

回答：認知機能低下、常同行動、脱抑制を認め始めた X-2 年前からは、リスペリドン、炭酸リチウム、セルトラリン、ドネペジル、メマンチンが使用されたが、双極性障害の治療のため通院していた病院での内服内容は不明である。

質問：双極性障害と診断された 50 代の時点で、前頭側頭型認知症を発症していた可能性について。

回答：X-14 年の双極性障害と診断された際の症状や認知機能についての情報が不足しているため、判断は困難ではあるが、X-2 年から前頭葉の萎縮が進行し、それに伴い認知機能低下や脱抑制や常同行動といった行動障害を認めたことから、双極性障害の経過中に前頭側頭型認知症を発症したと考えた。

質問：クエチアピンの薬剤選択の理由について。

回答：リスペリドンにて錐体外路症状の副作用が強く生じており、抗精神病薬の中でも D2 受容体遮断作用が弱く、鎮静効果が期待できるものとして、クエチアピンを選択した。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第71回デメンシアカンファレンス(Web)

双極性障害の経過中に発症した 前頭側頭型認知症の一例

2021年4月27日(火) 18:30~20:00

発表者 金沢医科大学病院神経科精神科 大畑郁乃
担当 金沢医科大学
対象 参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム (WebEX) を使用

教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。

上記以外で参加を希望される方は4月26日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。

(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

お問い合わせ

北陸認プロ運営事務局

〒 920-8640 金沢市宝町13番1号

TEL 076-265-2149 / FAX 076-234-4208

E-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL <http://ninpro.jp/>